

のぼりべつアイヌ文化紀行

～文学と地名を巡って、 アイヌ文化に出会う～

登別市は『アイヌ神謡集』を記した知里幸恵の生地です。
弟で言語学者の知里真志保、伯母でユカラを筆録した金成マツも登別市出身です。
彼女らのゆかりの地で、アイヌ文学・アイヌ語地名の散策を楽しんでみませんか。
「銀の滴降る降るまわりに 金の滴降る降るまわりに」。
ここは、『アイヌ神謡集』のふるさとです。



モデルコース①

アヨロ海岸コース(約80分)

登別駅

徒歩8分

フンベサバ(5分)

徒歩22分

カムイミタル

カムイエカシチャン

オソロコチ(15分)

徒歩30分

登別駅

モデルコース②

銀のしずく記念館コース(70分)

登別駅

徒歩15分

銀のしずく記念館(30分)

徒歩8分

登別川

知里真志保の碑

徒歩13分

登別駅

モデルコース③

アイヌ語を遺した人物コース(120分)

登別駅

徒歩13分

登別川

知里真志保の碑

徒歩15分

アフナルバル

徒歩8分

知里幸恵の墓

金成マツの碑

徒歩27分

銀のしずく記念館(30分)

徒歩15分

登別駅





金成マツ
(アイヌ名/イメカス)



知里真志保



知里幸恵

『アイヌ神謡集』

知里幸恵と

登別(ヌプルベツ)は『アイヌ神謡集』の著者である知里幸恵(1903~1922年)の生地です。彼女が記した『アイヌ神謡集』の序文は、「その昔この広い北海道は、私たちの祖先の自由の天地でありました。」と書き出されています。その「自由の天地」の原風景は、幸恵の生地 登別だと想像できます。海あり山あり、原生の森に抱かれ、幸せに生活していた先祖の遠い営みに思いを馳せながら書き表したのでしょう。

幸恵が登別に生まれたのは明治36年(1903)、登別には7歳になるまで暮らしています。主に登別川沿いの一角です。幸恵が父母や弟(高央・真志保)、妹たちとともに暮らした「ゆかりの地」は静かな河畔林となつて、今も当時の面影を残しています。こは、幸恵の遺志を継いで、膨大なユカラを筆録した伯母 金成マツも亡くなるまでの30数年間を暮らしたところ。幸恵は、岡志別川周辺の山間で祖母と2人で暮らした時期もありました。祖母 モナシノウクとの暮らしはアイヌ語での生活だったので、幸恵は小学校入学前のこの時期に、母語であるアイヌ語を吸収したことになります。そのことがほどなくアイヌ文学を書き記す際の下地になったと言えます。登別は幸恵にとっては意義深い場所であり、『アイヌ神謡集』を生む素地が培われた場所になります。

幸恵の『アイヌ神謡集』に描かれている登場者たちが織りなす物語の世界は、この「登別」の豊かな自然

① 知里幸恵の墓・金成マツの碑

説明板あり

大正11年(1922)に亡くなった知里幸恵の墓(昭和50年に現在の場所へ改葬)と昭和36年(1951)に亡くなった金成マツの墓。富浦墓地にあります。



■ 駐車場 富浦墓地

② 知里幸恵 銀のしずく記念館

登別市に生まれた知里幸恵の業績と幸恵を通してアイヌ文化を広く伝える博物館。

■ 開館時間 9:30~16:30(入館は16:00まで)
■ 入館料 大人500円、
団体(10名以上)450円、
登別市在住者250円、
高校生200円、
小・中学生100円
■ 休館日 火曜日(祝日除く)、
冬季休館(12月20日~2月末日)
■ Tel・Fax 0143-83-5666



③ カムイワッカ

説明板あり

神の水を指すアイヌ語地名(「カムイ」は神、「ワッカ」は水)で、湧き水があります。江戸時代に北海道を旅した松浦武四郎の記録にも紹介されています。コンビニエンスストアの横にある池の奥の小さな建物の横の場所から水が湧き出ており、この水がボンアヨロ川になります。



④ アフルンパル

説明板あり

死後の世界へつながる場所を指すアイヌ語地名(「アフル」は入る、「ル」は道、「パル(パ)」は口)。横穴が一般的ですが、ここは珍しい堅穴です。登別漁港には横穴のアフルンパルがあります。ともに、死者の世界につながっていることから、近づいてはいけない場所として伝えられてきました。

■ 駐車場 富浦墓地



⑤ 知里真志保の碑

説明板あり

登別市出身のアイヌ語学者で、知里幸恵の弟である知里真志保の死後、彼を顕彰するため、昭和48年(1973)に市民の有志や母校の旧制室蘭中学校の同窓生によって建てられた碑。台座には、真志保の友人で、アイヌ語地名研究者の山田秀三による碑文が刻まれています。



⑥ フンペサパ(フンベ山)

説明板あり



「フンペ」はクジラ、「サパ」は頭を意味するアイヌ語。大きな岩山で、地元ではフンベ山と呼んでいます。登別市にはフンペサパにまつわる物語が残されており、カワウソの神がクジラに似た怪魚シヨキナを刀で退治するお話です。20分ほどの散策路あり。

⑦ ヌプルベツ(登別川)

説明板あり

色の濃い川を意味するアイヌ語地名(「ヌプル」は色の濃い、霊力のある、「ベツ」は川)。登別市の名前の由来となっています。登別温泉からのお湯が流れ込むため、雨が降ってなくても白く濁っていることがあります。秋にはたくさんのサケが遡上します。



⑧ カムイエカシチャシ

チャシと呼ばれる岩や儀式的場、聖地の場所。「カムイ」は神、「エカシ」は長老、「チャシ」は岩などを意味するアイヌ語。ボンアヨロ川の河口にあり、アヨロ鼻灯台が現在建っています。そこから眺める太平洋の景色は素晴らしいです。



⑨ オソロコチ

カムイエカシチャシにあるアヨロ鼻灯台から左手に見える海岸線のくぼ地。「オソ」はその尻、「コチ」は凹みを意味するアイヌ語。創世神が、クジラをヨモギの串に刺して焼いている時に、串が折れたので、驚いてついた尻もちの跡とされています。



アイヌ文化をもっと知ることができる場所

登別市郷土資料館 登別市片倉町6丁目27

■ Tel・Fax 0143-88-1339
■ 開館時間 4~10月は10:00~17:00、11~3月は16:00まで
■ 休館日 月曜日、国民の祝日の翌日、12月29日~1月3日
※ 祝日にあたる月曜日は開館
■ 入館料 大人190円(150円)、小・中学生60円(50円)
※ () 20名以上の団体料金



のぼりべつクマ牧場(ユーカラの里) 登別市登別温泉町224

■ Tel. 0143-84-2225
■ Fax. 0143-84-2857
■ 営業時間 不定休 詳細は公式ホームページをご確認ください。
■ 入館料 大人2,650円(2,350円)、4歳~小学6年生1,350円(1,200円)
※ () 10名以上の団体料金



ウポポイ(民族共生象徴空間) 白老町若草町2丁目3

■ Tel. 0144-82-3914
■ 営業時間 9:00~17:00(入館は閉園1時間前まで)
※ 曜日や季節により延長あり(詳細はホームページでご確認ください)
■ 定休日 月曜、12月29日~1月3日 ※ 祝日にあたる月曜日は開館
■ 入場料 大人1,200円(960円)、高校生600円(480円)
※ () 20名以上の団体料金

